

CL-3-ii-01	<b>薬物治療Ⅱ</b>	第3学年	前期 必修	1.5単位
<b>担当者</b>	武藤 章弘・築地 信			
<b>一般目標 (GIO)</b>	消化器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）、および悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。			
<b>到達目標 (SBOs)</b>	<p>【消化器系疾患の薬、病態、治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上部消化器疾患について、病態・薬物治療・治療薬の薬理を説明できる。</li> <li>2. 炎症性腸疾患について、病態・薬物治療・治療薬の薬理を説明できる。</li> <li>3. 肝疾患、膵炎、胆道疾患について、病態・薬物治療・治療薬の薬理を説明できる。</li> <li>4. 機能性消化管障害について、病態・薬物治療・治療薬の薬理を説明できる。</li> <li>5. 便秘・下痢、悪心・嘔吐について、病態・薬物治療・治療薬の薬理を説明できる。</li> <li>6. 痔について、病態・薬物治療・治療薬の薬理を説明できる。</li> </ol> <p>【抗菌薬】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 抗菌薬の薬理、臨床適用を説明できる。</li> <li>2. 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤の作用機序を説明できる。</li> </ol> <p>【抗菌薬の耐性】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。</li> </ol> <p>【細菌感染症の薬、病態、治療】</p> <p>到達目標 (SBO) : SBO コード</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器感染症について、病態、感染経路と予防方法および薬物治療を説明できる。</li> <li>2. 消化器感染症について、病態、感染経路と予防方法および薬物治療を説明できる。</li> <li>3. 感覚器感染症について、病態、感染経路と予防方法および薬物治療を説明できる。</li> <li>4. 尿路感染症について、病態、感染経路と予防方法および薬物治療を説明できる。</li> <li>5. 性感染症について、病態、感染経路と予防方法および薬物治療を説明できる。</li> <li>6. 脳炎、髄膜炎について、病態、感染経路と予防方法および薬物治療を説明できる。</li> <li>7. 皮膚細菌感染症について、病態、感染経路と予防方法および薬物治療を説明できる。</li> <li>8. 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態、感染経路と予防方法および薬物治療を説明できる。</li> <li>9. 薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態および薬物治療を説明できる。</li> <li>10. 全身性細菌感染症について、病態、感染経路と予防方法および薬物治療を説明できる。</li> </ol> <p>【ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルペスウイルス感染症について、治療薬の薬理、予防方法および病態・薬物治療を説明できる。</li> <li>2. サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。</li> <li>3. インフルエンザについて、治療薬の薬理、感染経路と予防方法および病態・薬物治療を説明できる。</li> </ol> <p>【真菌感染症の薬、病態、治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 抗真菌薬の薬理および臨床適用を説明できる。</li> <li>2. 真菌感染症について、病態・薬物治療を説明できる。</li> </ol> <p>【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】</p> <p>原虫感染症、寄生虫感染症について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。</p> <p>【化学構造と薬効】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効の関連を概説できる。</li> <li>2. 病原微生物に関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効の関連を概説できる。</li> </ol>			
<b>受講心得・準備学習等</b>	これまでに習得した知識を再確認すること。講義予定表を参考にして、教科書の該当するところを20分程度で目を通しておくこと。			
<b>事後学習・復習等</b>	講義で指摘されたところを10分程度でよいので必ず目を通すとともに、薬剤の構造、作用機序等の理解のために、15分程度の時間で教科書とともに構造集を用意して適宜参照することが望ましい。			
<b>オフィスアワー</b>	毎週火曜日午後5時から6時、毎週水曜日午後5時から6時半。			

### 授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義	
回	項目	内容	担当者
1	感染と予防	微生物と宿主の相互作用	築地
2	細菌感染症(1)	呼吸器感染症、消化器感染症	築地
3	細菌感染症(2)	感覚器感染症、尿路感染症、性感染症	築地

4	細菌感染症(3)	脳炎、髄膜炎、皮膚細菌感染、心内膜炎、胸膜炎	築地
5	細菌感染症(4)	薬剤耐性菌、院内感染、全身性細菌感染症	築地
6	その他の感染症	ウイルス、真菌、原虫、寄生虫感染症	築地
7	抗菌薬(1)	抗菌薬の薬理(1)	武藤
8	抗菌薬(2)	抗菌薬の薬理(2)	武藤
9	抗菌薬(3)	抗菌薬の基本構造と薬効	武藤
10	消化器系疾患	上部消化器疾患	武藤
11	消化器系疾患	炎症性腸疾患	武藤
12	消化器系疾患	肝疾患、膵疾患	武藤
13	消化器系疾患	胆道疾患、痔疾患	武藤
14	消化器系疾患	機能的消化管障害、便秘・下痢、悪心・嘔吐	武藤

<b>成績評価の方法</b>	定期試験と講義中に行う演習の成績により評価する。
<b>成績評価の基準</b>	定期試験と講義中に行う演習の評価点の合計が 60 点以上を合格とする。
<b>教科書</b>	亀井淳三, 齋藤英胤編「Principal Pharmacotherapy」(ネオメディカル) 辻 勉(編)「薬学領域の微生物学・免疫学(第2版)」(廣川書店)
<b>参考書など</b>	医療情報科学研究所編「病気がみえる 〈vol.6〉 免疫・膠原病・感染症」(メディックメディア) 医療情報科学研究所編「病気がみえる 〈vol.1〉 消化器」(メディックメディア)